

総合計画審議会委員と職員による意見交換会結果

戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり 《チーム1》 平成30年7月13日



■白井での働き方・働くことの魅力の掘り下げ

【具体的な取組】

- ・市内外からのインターンシップ事業
- ・セカンドワークのススメ
- ・白井ライフの定義
- ・市内事業所の働き場の視点での紹介
- ・白井工業団地のモノづくりについてもPR
- ・どんな世代になっても働けるようにする
- ・若い世代の働く価値観・ニーズの深掘り

学校教育におけるワークライフバランスを進める取り組み

- ・職業紹介所をもっと利用してもらう
- ・各事業者が自社の魅力をPR

【課題】

- ・先生の理解が浅い
- ・継続した新しい情報の更新
- ・工業団地にWEBサイトがあることを知らない
- ・広報紙面スペースの限界
- ・望ましい労働環境の把握

【解決策】

- ・市内で働いている人の紹介を広報に載せていく
- ・就職支援やセミナーの周辺市との連携を続ける

・学校教育における地元での働き方の醸成

■異業種間交流の橋渡し

【具体的な取組】

- ・異業種交流会を立ち上げる
- ・夏祭りに異業種交流広場を設ける

【課題】

- ・異業種間で生み出せるものを話し合う必要がある

【解決策】

- ・地域資源・地域での生活を掘り下げる教育・体験
- ・とりあえず、事業化する

■人・モノなどの既存資源を生かすビジネス、新しい事業体による産業活性化

【具体的な取組】

- ・空き家に宿泊
- ・各事業所のベンチャー事業体のような組織を作る
- ・休耕地で農業体験
- ・地域資源を掘り下げる
- ・休耕地の情報を収集する農地中間管理機構がある

- ・既存でない価値を掘り下げる
- ・空き家の状況を空き家に掲示する
- ・市内子育てママたちの人材バンク

【課題】

- ・リーダー的な人材の発掘・育成
- ・アイデア・情報の共有不足
- ・母体となる組織がない
- ・中心人物取りまとめ後の負担増が懸念

- ・問題をぶつけられる場・機会がない
- ・作り方がわからない
- ・既存の価値観から離れた発想がない
- ・第三者の積極的関与・仲介
- ・誰がやるのか

【解決策】

- ・事業者の働き方改革
- ・公的借上げ組織を立ち上げ空き家を定期借地権として貸し出す
- ・広域的な連携の中で白井市の役割を見出す

- ・新事業体のパワーを利用する

■週末農業・地域居住などの交流人口

【具体的な取組】

- ・NPO法人を作る
- ・週末だけの農業体験
- ・新規就農者受け入れ等のモデルケースをまずは一つ作る
- ・新事業ファンドを設けて、企業コンクールを実施する
- ・クラインガルテンを制度化
- ・休耕地をターゲットにした取組強化
- ・まちづくり会社を作る
- ・新事業体と地域特産物などのマッチング

- ・ふるさと納税を募集する

【課題】

- ・土地・人材の共有という発想の弱さ
- ・地権者の意識
- ・農地の貸借が難しい
- ・休耕地の整備に費用が掛かる
- ・問題が発生しないよう配慮が必要
- ・農業は血縁者もしくは地縁者でやるべきという先入観

【解決策】

- ・制度はあるのでやる気次第
- ・成功のモデルケースを当事者で共有する
- ・取り組みやすいスタイルの構築

■産業振興の+α

【具体的な取組】

- ・新たな種地を生み出す
- ・内に留まっている声を拾い上げる

- ・異業種・異文化・行政などを含めた勉強会

【課題】

- ・北総線の運賃があまりに高い
- ・周辺環境の調和・インフラの整備
- ・16号で市が南北で分断され、朝晩渋滞がひどい
- ・土地を貸さない・売らないという地主が多い
- ・全体最適としての土地利用の設定
- ・土地利用の制限

【解決策】

- ・信頼してもらえらる団体ファンドをつくる
- ・工業団地の位置付け、名称変更



■白井での働き方・働くことの魅力の掘り下げ

【具体的な取組】

- ・発信方法の検討 (J-WAVE、Bay-FM)
- ・地域からアイデアコンテスト for 事業体
- ・近居の人たち対策

【課題】

【解決策】

■異業種間交流の橋渡し

【具体的な取組】

- ・楽しんでやってくれるネットワーク団体をどう育てるか

【課題】

【解決策】

■人・モノなどの既存資源を生かすビジネス、新しい事業体による産業活性化

【具体的な取組】

- ・行政は旗振りしない
- ・国際交流発信・周辺自治体との連携
- ・ゾーン対策
- ・地区・学校区内での定例会で話していく
- ・フェミナスどうする？
- ・脱初心者ターゲット

・支援隊づくり発掘

- ・イベント with 印西・鎌ヶ谷
- ・段階を追った検討
- ・つながっているどうかの検討
- ・体験の場づくり (大人版キッズニア)
- ・成功者の発掘
- ・助成事業を活用する
- ・恋する豚研究所のような業者を創業
- ・働き方ニーズ把握
- ・教育委員会との連携
- ・生活時間調査
- ・ママニーズの吸い上げ
- ・介護離職
- ・ダブルケア対策
- ・災害対策
- ・PTAとの連携
- ・子供の年代に合わせたニーズの把握
- ・離職防止に向けた取り組み

【課題】

- ・どのようにPRしていくのか
- ・労働者のニーズの把握
- ・教育委員会とのかかわりが難しい
- ・農家とのかかわり方
- ・季節性への配慮

【解決策】

- ・寡婦 (寡夫) 対策を行う
- ・富士センターで子供の早朝預かりを



■環境価値の位置付けの掘り下げ
【具体的な取組】
 ・位置付けの整理
 ・街路樹の整備
 ・コンセプトづくり（都市と共存する自然環境）
 ・よいところ百選の再評価
 ・工業団地の空き地を借上げ、緑の公園を
 ・都市と農村の交流から価値を作る
 ・木があると涼しいので、出来るだけ残す
【課題】
 ・整備管理には多額の財源が必要
 ・林が切り開かれても、建物を建てない場合は止められない
【解決策】
 ・職員へ環境の研修を行う
 ・企業でも ISO14001 取得への促進をする
 ・自社で出来る緑の活動の評価の仕組みづくり
 ■環境保全活動の周知・活動の楽しみを見出す
【具体的な取組】
 ・小学校の環境学習をさらに広める
 ・子供たちに自然を体験する機会を与える
 ・オスメスポットの創出と周知
 ・小学校で市内の名所めぐり
 ・保全～美化～清掃など入口を整理していく

・子供のころから積上げ型学習を
 ・木に名札を付けて子どもに木の名前を知ってもらおう
【課題】
 ・首長部門と教育部門の壁
 ・市内出身職員の減少
 ・環境保全とゴミの関係
 ・自然と小学校の位置関係で環境学習ができない
 ・学習指導要領の壁
【解決策】
 ・市内各学校の小学生が交流を持ち、自然について意見交換できる場を設ける
 ・クラウドファンディングなどの手法を積極的に活用
 ■地域慣習・歴史により関心を高める
【具体的な取組】
 ・文化財や民話とのコラボ
 ・七福神めぐりを活用
【解決策】
 ・まちづくり協議会でテーマにあげてもらおう
 ■地元との連携
【具体的な取組】
 ・子供たちが市内の環境を積極的に体験する
 ・自治連合会との連携
 ・参加できるきっかけ・方法を周知
 ・既存の取り組みの周知
 ・生け垣を金を出さずに促進
 ・ブロック塀から生け垣へ

<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に活動してもらうためのインセンティブは？ ・自治会活動離れ ・個々の活動団体が横のつながりをもっていない <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材活用の中で環境教育を進めていく ・学校公開の周知で地域の人を集める ・グランドワークに關与する ・ビオトープなど地域で取り組めることを提案・支援していく <p>■日常生活との接点を作る</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・職場・住宅・店舗に環境意識を徹底 ・身近なところで自然体験 ・自治体がらみで活動する ・学校の教育活動との連携 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ごと・年度ごと重点とするテーマが違ふ ・水場・トイレがない ・グランドワークや市民の森などをどこまで周知するのか <p>【解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然との共存を図る生活スタイルの提案 ・水場・トイレの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者・事業者とよく話し合うことが必要
--	--



■環境価値の位置付けの掘り下げ

【具体的な取組】

- ・ 大学との連携
- ・ 家族参加型イベント
- ・ 参加募集型から全員参加型イベントへ
- ・ 研究者を増やす
- ・ 食と環境のコラボレーション
- ・ 市外に向けた働きかけ

■環境保全活動の周知・活動の楽しみを見出す

【具体的な取組】

- ・ 里山祭りイベント
- ・ イノベーション普及
- ・ ネットワーク組織を作る
- ・ 環境フォーラム
- ・ 竹炭で作れるもの
- ・ 緑で健康になる実感を
- ・ 原っぱの会
- ・ 竹林の活用
- ・ 環境団体の連携強化
- ・ 元気な高齢者の活用
- ・ 団体への啓発・啓蒙

【課題】

- ・ 若い担当者から関係者への説得に時間がかかる

・ 費用が掛かる

- ・ 保全を行うことでかえって荒らされることもある

■地域慣習・歴史により関心を高める

【具体的な取組】

- ・ 歴史的なところを掘り起こす
- ・ カブトムシのベッド
- ・ 黒船づくり

■ + α

【具体的な取組】

- ・ 教職員の研修での周知
- ・ 中学校の職業体験
- ・ 珍しい生き物に焦点を当てる
- ・ 外部資金の活用
- ・ 秀明大学からの参画



■何をもってにぎわいなのかのコンセプトを固める

【具体的な取組】

- ・市民のにぎわいなのか市外からのにぎわいなのかを明らかにする
- ・商業施設のにぎわいに加え、文化的なにぎわいも必要
- ・人の流れを増やす企業誘致
- ・当事者を決め一度イメージを固める
- ・印西市や鎌ヶ谷市と違った市内に向けた方向性
- ・大型店舗などは他市に任せ、特色ある小商業施設を目指す

【課題】

- ・コンセプトの見直し
- ・白井市の目指すにぎわいの確認

【解決策】

- ・解決するにぎわいを決める
- ・子ども・若者たちの意見を一部でも反映

- ・交流人口の焦点を明確にさせる
- ・子どもの意見を吸い上げる
- ・インスタスポットを作る
- ・十代の意見を取り入れるしくみづくり
- ・人の流れのストーリーを作る

■既存施設との融合

【具体的な取組】

- ・駅前センターのコミセン化
- ・マルシェの駅前定期開催
- ・西白井駅マルエツ2階、白井駅マルエ

ツ2階N A S跡スペースの活用

- ・市内製品の展示・販売
- ・各施設の事業の周知をする
- ・民間ギャラリーの活用を図る

【課題】

- ・駅前施設は勤労世代が使いにくい
- ・コンパクト化の裏返しとして利用者層に限られる
- ・勤労世代が活用しやすい施設になっていない
- ・視線にとまらないことから、集客が望みづらい

・図書館蔵書の分散化

【解決策】

- ・駅前センター・複合センターの大改修
- ・資金調達方法の検討・調査
- ・NPOの活用
- ・市民の協力を得て、文化的にぎわいも盛り上げていく

■とどまるという視点

【具体的な取組】

- ・駅周辺に座れる場所の確保
- ・駅周辺に図書館分館を作る
- ・空き店舗を利用したカフェなどの整備
- ・駅前をわかりやすくする
- ・駅利用者を増やす
- ・駅前図書館をもう少し開放的に…スリッパに履き替えては利用しづらい
- ・駅前カフェ 図書やPC閲覧
- ・若手芸術家の作品展示

- ・ 駅前に休憩できる場所づくり
- 【課題】**
- ・ 子どもが来る場所がない
 - ・ 若者向けの図書が減らされているとの声があるため、若者を呼び込むためには増やすべきでは？
 - ・ 市でベンチを作る
 - ・ 公共施設で上履きに履き替えるのが面倒
 - ・ 西白井駅方面は文化活動の小拠点が少ない
- 【解決策】**
- ・ 駅前でとどまれる場所のPR、マップ制作等で情報提供する
- 企業支援ーマルシェーにぎわいー市民活動（横のつながり）
- 【具体的な取組】**
- ・ モデル事業の取組とPR
 - ・ ベンチャー企業の助成
 - ・ イベントのPRを推進し、市民への周知を図る
 - ・ 地産地消レストランの起業支援
 - ・ 夏祭りのように人出が多くにぎわうイベントの駅前での常時開催
 - ・ 白井の歴史を学ぶ場
- 【課題】**
- ・ 使用料が高い・集客条件が悪い中での起業は難しい
 - ・ 横のつながり・連携が足りていない
 - ・ アイデア出しからの具体化支援の部分がつながってきていない
- 【解決策】**
- ・ 市内に高校もあることから、高校生の意見を取り入れる
 - ・ 商店街の後継支援、金融連携



■何をもってにぎわいなのかのコンセプトを固める

【具体的な取組】

- ・バリアフリー
- ・簡易ベンチの設置
- ・夜市（キッチンカー）
- ・横断的に他課の取組と連携

【課題】

- ・主管課決めが難しい

■既存施設との融合

【具体的な取組】

- ・駅前託児所

【課題】

- ・権利者が望まないケース
- ・西白井駅前マルエツの2階の活用
- ・店長よりテナントビルオーナーへのアプローチ

【解決策】

・ハード面は時間がかかるためソフト面を！

- ・小規模店をつなげていく仕組み
- ・優先事項をはっきりさせる
- ・地価を上げる取り組み

■とどまるという視点

【具体的な取組】

- ・白井駅南口再開発
- ・駅前広場の維持・修繕
- ・滞留空間を作る
- ・移動図書館の活用
- ・借りた本の返却所の増設

・歩行空間の機能維持

- ・ビル風対策
- ・タイル張替えの検討
- ・マルシェから発展させる

【課題】

- ・予算がない
- ・土地がない
- ・同業者→商売敵×皆で発展○

【解決策】

- ・同じ業種を集積
- ・市の施設にも何か誘致を

■企業支援—マルシェ—にぎわい—市民活動（横のつながり）

【具体的な取組】

- ・白井駅前でミニマルシェ
- ・広場空間の利用
- ・西白井複合センター祭り
- ・民間の事業に市から提案する場を設ける

- ・コミュニティビジネスの育成支援

- ・市外への情報発信

【課題】

- ・駅前駐車場の利活用
- ・駐車場の在り方
- ・車がない人への対応
- ・歩きやすさ

【解決策】

- ・商店街内での相乗効果を誘導する
- ・ナッシー号の日曜運行



■ターゲットを明確に・ターゲットごとの取り組みを見出す

【具体的な取組】

- ・履歴の違いによって白井の自然がどのように映るか
- ・中学校の卒業プロジェクトに保全活用を行う

【課題】

- ・緑をめぐる学習の場のなさ
- ・共通コンセプト作りの必要性

【解決策】

- ・白井ならではの自然生活
- ・植林+タイムカプセル
- ・みどりをつかさどるサロン
- ・みどりの状況の歴史的变化を可視化する

■市民ニーズの分析

【具体的な取組】

- ・市民の森のPR活動と整備
- ・桜の木の整備
- ・市民の時間の使い方をリサーチ
- ・木陰づくり
- ・家庭でできることへの働きかけ

【課題】

- ・みどりをめぐる市民の温度差
- ・学びの場が少ない
- ・情報発信が少ない

【解決策】

- ・みどりの日イベント
- ・市職員の調査・仕事を教育につなげる

- ・自然・生物との共存を学ぶ体験

- ・先人の知恵を聞き取る
- ・みどり保全に対するインセンティブ
- ・宿泊学習への組み込み
- ・わがまちの桜自慢コンテスト

■市民が主体的にかかわっていく裾野を広げる

【具体的な取組】

- ・市民の自主企画を常時受け付けていく
- ・まちづくり協議会のテーマとする
- ・刈払機セミナーなどを行う
- ・植栽活動
- ・植栽のストーリー化
- ・森林・里山整備の中で遊ぶ・作る

【課題】

- ・組織化が難しい
- ・市民団体の高齢化

【解決策】

- ・市民講座の開催
- ・みどりの保全について広く市民に知らせる
- ・学区ごとのみどり自慢
- ・昔やっていたイベントの復活

■みどりでつなぐ視点で様々な人・世代・分野をつなぐ

【具体的な取組】

- ・みどりでつなぐプロジェクトの公募
- ・ログハウス・ツリーハウス・ピザ窯など楽しいプロジェクト

【課題】

・梨畑がソーラーパネルになることによる景観の悪化

【解決策】

・キャンプ場で自然・星を見に行く

■みどりを様々な分野でとらえる

【具体的な取組】

・園芸療法関連の組織とのネットワークを作る

・各部署でみどりの価値がどう捉えられているのか調査する

・森の保育園を作る

【課題】

・資金がいる

・中核になる組織が必要

・管理責任、責任の所在の在り方

・マンパワー、協力者、理解者、協働者がいない

【解決策】

・クラウドファンディングの活用

・市民・民間からの投資

・NPOなどの立ち上げ

・炭などのウッドビジネス



■ターゲットを明確に・ターゲットごとの取り組みを見出す

【具体的な取組】

- ・ビオトープ等で八幡溜の会との連携
- ・子どもを含めた人のつながり
- ・子ども×生き物
- ・カンナ街道、カンナ 190 株
- ・就学前の教育の一環としての取り組み
- ・幼稚園・保育園単位の事業からまち全体へひろげる
- ・インスタグラムの活用

【課題】

- ・遊歩道が草だらけ
- ・教育委員会との連携
- ・市民が知らないことが多い
- ・PRすると植物がとられてしまう

【解決策】

- ・学校に安全な環境の事例をみせていく
- ・食育とビオトープのコラボ
- ・子どもの楽しかったをみせる
- ・子育てへのメリットを説いていく
- ・取組みが 1 つだけでも人の目に触れるよう発信を強化する
- ・カンナ街道の取組のようなものをつなげていく

■市民が主体的にかかわっていく裾野を広げる

【具体的な取組】

- ・西白井複合センター花種まき
- ・事業取組み前後を比較し、成果を見える化

・活動域を広げる

- ・環境フォーラムパネル展示
- ・みどりにつながる取組の紹介
- ・URから土地を借り、花壇を作る

【課題】

・現状では、限られた情報での評価になっている

【解決策】

- ・谷田・清戸の素晴らしさをPR
- ・谷田・清戸・カンナ街道議員バスツアー

■みどりでつなぐ視点で様々な人・世代・分野をつなぐ

【具体的な取組】

- ・みどりでつながる
- ・市民課前にホテル with 募金箱
- ・青少年相談員ナイトウォークコースにホテル生息地
- ・市職員が好きな場所に種まき



■コーディネーターの育成の方向性・地区担当職員制度の在り方

【具体的な取組】

- ・普段から横断的に話す機会を
- ・地区担当職員制を通じて、若い職員は顔をうる

【課題】

- ・若手職員のあいさつ

■地域・役所のナチュラルヘルパー（キーパーソン）の発掘・育成

【具体的な取組】

- ・職員間の情報のシェア

【課題】

- ・キーパーソンの使い方

【解決策】

- ・OB・OGの再任用

■まちサポの在り方・役割

【具体的な取組】

- ・市役所を人が集まる場所へ
- ・まちサポの利用者の把握
- ・土日祝祭日のOPEN
- ・まちサポコンセプトの緩和

【課題】

- ・まちサポに入りづらい
- ・使用料が高い
- ・どのように足を運んでもらうのか

【解決策】

- ・お試し期間
- ・まちサポの周知徹底
- ・多目的スペースの有効利用

・SNSでの発信

■バスのコストとニーズのバランス

【具体的な取組】

- ・市内商業施設を巡るバス

【解決策】

- ・交通過疎地の解消

■道路計画の優先順位など情報発信の工夫

【具体的な取組】

- ・生活道路の整備
- ・事業者との役割分担

【課題】

- ・地権者との折衝
- ・財源



■コーディネーターの育成の方向性・地区担当職員制度の在り方

【具体的な取組】

- ・職員・地域市民コーディネーターの役割分担、育成方法の明確化
- ・少額ファンドを地域課題対処に
- ・地域課題の明確化によるコーディネーター育成
- ・テーマの共有
- ・地域課題の明確化によるコーディネーター養成
- ・地区担当職員制度をどんどん進めていく

【課題】

- ・各地区の人材発掘が容易でない
- ・コーディネーターの横断的まちづくりの視点

【解決策】

- ・地域のサポート人材（役所OBなど）
- 地域・役所のナチュラルヘルパー（キーパーソン）の発掘・育成

【具体的な取組】

- ・地域リーダーの活用
- ・地域課題解決型セミナー
- ・地域特性の把握と展開の検討
- ・コミュニティーデザインシリーズセミナー
- ・地域リーダーに研修を受けてもらう
- ・市職員としてのモデルを明確化

【課題】

- ・職務が成り立つのか

【解決策】

- ・モデル地区を作ってみる
- ・成功事例の波及
- ・既存事業単位の見直し

■まちサポの在り方、役割

【具体的な取組】

- ・まちサポのPR
- ・地区ごとのテーマと市全体のテーマを考える

【課題】

- ・郷土愛が欠落
- ・課題の深掘り
- ・既存団体間の壁

【解決策】

- ・郷土愛の醸成
- ・既存団体を口説く
- ・市の状況を市民へ周知し、危機感を共有する

■現場からの声をどうつなげるか

【具体的な取組】

- ・市長との面会ミニ懇談会をもっと活用
- ・子ども市民会議

【課題】

- ・課題の深掘り

【解決策】

- ・地域マッピングを行い、ポテンシャルをはかる
- ・まち協の意義の強化

■バスのコストとニーズのバランス

【具体的な取組】

- ・交通弱者の救済
- ・市民ニーズを吸い上げる